

令和4年度 京都府立京都すばる高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 最終評価段階 ）		
学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
《スクールミッション》 府内唯一の商業と情報の職業に関する専門高校として、新しい時代に応じた専門教育によって地域社会から信頼され必要とされる学校 《本校が目指す学校像》 ①新しい時代の職業観を確立する学校 新しい時代に応じた専門性と社会に貢献する意識を育む取組が実践される学校 ②主体性を確立する学校 自己肯定感を高め、自ら考え挑戦する意識を育む取組が実践される学校 ③自立（律）性を確立する学校 規範意識と多様性を育む取り組みが実践される学校 ④社会性を確立する学校 グローバル社会における連携や協働を重視し、社会から必要とされる人材育成の取組が実践される学校 ⑤デジタル・シティズンシップを確立する学校 情報技術を適切に利用できる行動規範を育む取組が実践される学校 ⑥進路実現のできる学校 社会とつながるキャリア形成としての進路実現や学力向上の取組が実践される学校	《凡事徹底》心を込めたあいさつ等、あたりまえのことを徹底して実践し主体的に取り組む態度を育成することをめざした。自主的に挨拶できるが、形式だけになっている生徒もいた。身だしなみについては多くの生徒が規則を守るが、自主的に整える意識を持たな生徒もいた。 《教育の情報化促進》教育用コンピュータの更新を行い、最新の情報教育設備の配備が出来た。次年度の生徒1人1台環境を見据え、教育の情報科ミーティングを開催し提言をまとめた。 《基本的学習習慣の確立》基本的学習習慣を定着させるとともに希望進路に対応した学力向上を目指し、新入生の学び直し授業は学習習慣を確立するきっかけにはなったが、基礎学力が向上したとはいいがたい。基礎学力の向上に向けて、また教員側の授業力向上に向けて更なる工夫が必要である。 《専門学科の専門性の徹底》国の地域協働事業が3年間の研究指定期間を終え、特色ある教育課程が完成した。今後はこの事業の継続が課題である。資格取得は合格率が伸びない検定試験もあり大きな課題となった。販売学習京都すばるデパートはオンライン販売と生徒開発商品の生徒販売を行った。 《人権教育を教育活動全体に適切に位置づけ実践》人権感覚を含め、人と友好な関係を築くための人権教育を生徒指導部主導のもと行った。年2回のアンケート調査や人権教育を通じて人権意識の定着は出来た。次年度以降、人権教育と多様性教育を本校の生徒指導の柱として扱っていく。 《新型コロナウイルス感染症への対応》感染リスクの高い教育活動は自粛や停止の措置がとられるなど、教育活動に大きな制限がかかった。スクールサポートスタッフの活用でコロナウイルス感染対策を実施した。教育活動は制限されたが、学年別体育祭の実施、オンライン京都すばるデパートの実施、国内へと行き先を変更した研修旅行等、生徒達の大切な体験的な学校行事は実施することが出来た。 《生徒募集活動の充実》全教職員が協力して生徒募集活動を行い、ホームページやSNSの更新は年間250回を超え、動画やSNSの活用などデジタル技術による広報活動に力を注いだ。令和4年度は新入生の定員は未充足であり、本校の魅力ある教育活動の情報発信にさらに努めたい。 《進路実現進学》就職に向けたきめ細かな指導を実践した。高大接続改革への対応については新入試制度の概要等を生徒・保護者・教職員に周知した。キャリア教育についてもキャリアパスポートの記入指導にとどまっており、キャリア教育そのものに対する教員の意識の醸成が必要である。 《保健・健康》スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を密にとり、学校に適應しにくい生徒の早期の実態把握と分掌間の連携を強めた。今後は特別な支援を必要とする生徒へ、ユニバーサルデザイン授業を全校で取り組むこと、個別指導の構築が必要である。 《学年活動》各学年の成長段階に応じて、基本的生活習慣・学習習慣を身につけさせるとともにキャリア形成を目的とした進路意識向上にもつとめた。 《施設・設備》課題として上げられていたものについて府教委と連携し、可能な範囲で取り組めた。老朽化した施設設備の改修も必要であるが学校の特色化を推進するための改修も計画・執行していかなければならない。	《本校が目指す学校像への取り組み》 ①新しい時代の職業観を確立する取組み ○新しい「京都すばるデパート」 ○検定試験合格 ○産業と連携した実践的探究 ○現代版ビジネスマナーにむけて髪型の規制見直しとオフィスカジュアルデーの導入 ②主体性を確立する取組み ○授業における主体的・対話的で深い学びの実現 ○体育祭・球技大会・研修旅行を活用した主体性の育成 ○部活動全員加入の検討 ○新しいタイプの部活動を研究(eスポーツ/アーバンスポーツ/ボランティア) ③自立（律）性を確立する取組み ○約束を守ること、清掃による校内環境保全などの凡事徹底 ○主権者教育（18歳選挙権） ○消費者教育（18歳成人） ○人権教育・多様性教育を生徒指導の柱にする ④社会性を確立する取組み ○地域ボランティア活動の推進 ○地域との協働的学習の推進 ○台湾士林高校との姉妹校提携を締結 ○平和教育の推進 ⑤デジタル・シティズンシップを確立するための取組み ○一人一台端末を授業・課外での活用を進める ○適切に情報技術を活用する規範や原則の啓発授業推進 ○教職員対象のワークショップ開催 ⑥進路実現のための取組み ○時代に応じた、企業が求める人材の育成 ○学校推薦・総合型選抜で勝負できる専門性や学力向上の徹底 ○連携型入試の拡大

令和4年度		京都府立京都すばる高等学校	学校経営計画（スクールマネジメントプラン）		（ 最終評価段階 ）		
部	評価領域	重点目標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	評価	成果と課題	
国語科	知識・技能	読む・書く・聞く・話すの国語の4要素の知識・技能を確立する	小テスト・定期考査をを行い、その到達度をはかる。	小テスト・定期考査において6割以上の正解を得られているか。	B	B	おおむね6割以上の正解をえた
	思考・判断・表現	読む・書く・聞く・話すを通じて深く考え、判断し、自分の考えを表現する力を確立する	スピーチやグループ学習、授業での発言において自分の考えをのべ表現でき、またその内容を聞き取るようにさせる。	授業中の発言あるいは、筆記において著作または他者の発言を正しく判断し、またそれに対して自分の考えを発言ないし筆記において表現できているか。	B		積極的に表現しようとした。
			文章を読み、それにたいする自分の考えを書き言葉によって表現できることをトレーニングする。		B		積極的に表現しようとした。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に読む・書く・聞く・話すに取り組む力を養う。	小テストを行うとともに、提出課題を学期ごとに設定し、主体的に学習に取り組むように促す。	小テストにおいて6割以上の正解を得られているか。	B		おおむね6割以上の正解をえた
提出物を期限内に丁寧に仕上げて提出できているか。				C	提出物について評価の基準を見直す必要がある。		
地歴公民科	主体性確立	授業における主体的・対話的で深い学びの実現	授業における発問・対話・グループ学習の導入	発問対話形式は毎時間 グループ学習は1学期2回程度	A	B	概ね達成
					B		時間が割けないことあり
	自立性確立	主権者・消費者・人権・多様性教育	地歴公民の学習関連関連分野での詳細説明	定期考査では関連分野での得点 その他は、映像教材視聴後の感想文	A		概ね達成
					B		時間が割けないことあり
	デジタル・シティズンシップ	一人一台端末を授業・課外での活用	1年は一人一台端末の授業での活用 2，3年は教員のICT機器の活用	1年生はiPadを用いた学習ができる。 2，3年生は教員がiPadを用いた授業ができる	B		他の教員の活用方法を知りたい
					B		他の教員の活用方法を知りたい
数学科	学習指導	基礎学力の定着を図る。	授業内容の精選と義務教育内容との連続性の重視。	課題提出率の100%を目指す。専門高校に必要な基礎概念の完全消化。	B	B	提出率90%を超えているが、100%には到達しなかった。
	進路指導	進路を切り開く学力の充実。	大学進学後も一般入試合格者に負けない学力の充実。	夏期・冬期進学補習を各期に最低1講座実施する。	A		生徒の進路実現に向けて、夏期・冬期補習を各期それぞれ2講座ずつ実施することができた。
	デジタル教育	デジタル教材の活用。	デジタル教材による授業の効率化。タブレットを用いた授業。	全授業内の20%の時間でデジタル教材を活用する。	C		デジタル教材を積極的に利用することができなかった。

令和4年度 京都府立京都すばる高等学校		学校経営計画（スクールマネジメントプラン）			（ 最終評価段階 ）		
部	評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	評価		成果と課題
理 科	主体性の確立	高校入学以前に学習した基礎知識および基本的な数的処理の学び直し	単元を学習する上で必要な基礎知識の定着度合いを確認し、必要であれば高校入学以前の内容であっても丁寧な指導を行う。	考查平均点および提出課題の得点平均が全体の60%以上となっているか。また、授業に関するアンケートにおいて、理解度や興味関心に関する項目の肯定的回答が70%以上となっているか。	B	B	考查平均点および提出課題の得点平均は、おおむね全体の60%以上となっていた。ただ、授業に関するアンケートにおいて、理系科目に対する苦手意識もあり、理解度や興味関心に関する項目の肯定的回答は伸び悩む結果となった。
		基礎知識の定着とそれに伴う学習意欲の向上	授業中の机間巡視や小テストの実施、定期考查の成績分析等を行い、生徒の理解度を常に確認しながら授業を行う。それにより、基礎知識の定着漏れを防止すると共にわかる授業を展開し、理解度の高い教科として学習意欲の向上を図る。		B		
	進路実現	個別の進路希望に応じた指導単元の精選	生徒の希望進路に合わせ、基礎知識だけでなく積極的に発展的内容を扱い、進学試験に対応できる学力を育成する。	進路実現において理科を活用する生徒が、進路実現できたかどうか。また、その過程における模試等の成績が進路実現をするために必要な基準以上となっているかどうか。	B	B	授業では時間やほとんどの講座がクラス授業である関係上扱いきれなかった単元の学習について、積極的な放課後補習で補った。それによって、進学試験に対応できる学力を一定レベル育成できた。
		個別の進路希望に応じた補習講座の開講	通常の授業では扱いきれない発展的内容を補習により早期から学習することで、進学試験に対応できる学力を育成する。		A		
	デジタル・シティズンシップの確立	一人一台端末の利用を促進する	配布プリントや課題提出、アンケートの回答等を個人端末で行えるようにする。	配布したプリントの取得率や課題の提出率、アンケートの回答率が90%以上となっているかどうか。	C	C	Kahoot!の利用や授業プリントの配布等、一部の活動に個人端末を使用したか、十分な活用には至らなかった。
保健	デジタル・シティズンシップの確立	一人一台端末の利用を積極的に活用していく	グラフや図など、教科書のQRコードを読み取り活用する。アンケート機能を活用する。	アンケート回答率が100%になっているか。	B	B	クラッシーノートなどを一部活用できた。3学科合同の保健授業では、タブレットとPCの違いに苦戦した。
体 育	主体性の確立	自己の体力における特徴と課題を把握させるとともに、一層の向上を図る。	毎時間の終わりに振り返りを記録させる。自分の課題を明確にし、次の授業に向かわせる。	振り返りシートにより自己の課題の達成度が授業開始時より向上しているか。	A	A	毎授業の振り返りを実施できたことにより、生徒自身の課題を明らかにすることができた。試合形式の中もルールをしっかり守って実施させたい。
		各種目の知識理解及び技能向上を図る。	知識テストを実施する。	知識テストの結果。ルールを理解したゲーム展開ができているか。	A		
	自立性の確立	安全かつ円滑に授業を進行するとともに、規律ある行動のもと、積極的に身体活動を行う心身の発達を促す。	年度初めに集団行動を実施し、集団での一人一人の行動の責任と重要性を感じさせる。毎時間の授業はじめに整列と挨拶を丁寧に実施する。誰か任せではなく、一人一人が声を出すよう促す。	体育授業時以外の場面でも整列、心のこもった挨拶ができているか。	B	B	自発的な挨拶が全体的に浸透していない。コロナの影響もあり、声を出すということにためらいがある。次年度からしっかりと習慣づけていきたい。
英 語 科	学習指導（英語）	学習における主体性を確立する取り組み	1年生英語コミュニケーションⅠ、3年情報科学科（課題研究コミュニケーションラボ・グローバル研究班）で効果的にTTを実施して主体的な態度を育成する。	TTを実施し、主体的にコミュニケーション能力を高めることができたか。	B	B	TTを実施できたが、英語によるコミュニケーション能力を高めることができなかった。
			定期的に授業内でリスニング指導を行う。	リスニングの指導及びテストを実施し、リスニング力を高めることができたか。	B		定期的リスニングのテストを実施できた。
		進路実現のための取り組み	授業内で課題を課し、家庭学習の習慣を確立させ、学力向上を図る。	日々の学習習慣を確立させることができたか。	C		学習習慣を確立させることができなかった。
			小テストを定期的実施し、学習内容と学習習慣の定着を図る。	小テストを定期的実施し、未到達者への指導を徹底できたか。	A		毎週英単語の小テストを実施し、語彙力増進の指導することができた。
			1、2年生の商業に関する学科の生徒全員に全商英検を受検させる。	全商英検合格に向けてきめ細かい指導を行い、合格率を上げる。	B		全商英検合格に向けて指導を行い、合格率を上げることができた。
			教科指導と評価について研究する。	研究授業や評価について教科全体で協議できたか。	B		研究授業を行い、教科全体で協議できた。
		授業改善につながる研究・研修の充実を図る。	授業改善について、教科会議で研究協議する。	授業改善について、教科会議で研究協議する。	C		授業改善について、教科会議で研究協議ができなかった。

令和4年度		京都府立京都すばる高等学校		学校経営計画（スクールマネジメントプラン）		（ 最終評価段階 ）	
部	評価領域	重点目標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	評価		成果と課題
家庭科	主体性の確立	授業における主体的・対話的で深い学びを実現する	アンケートや3～4名程度のグループワークを取り入れ、積極的な意見交換や発表を行い、振り返りレポートなどをこまめに取り入れる。課題レポートの発表などを通して、情報の共有を行う。	グループワークや意見交換が積極的にできているか。まとめられているか。（ワークまとめ点）	B	B	グループワークはクイズ形式、アンケート様式、協議様式など多様な方法で行えた。
		体験を通して創意工夫・効率の良い作業やルールを学ぶ。		必要な知識を系統的に吸収し、実践につなげられるか。定期考査に向けて誠実に学習できているか。（段階別考査点）	C		観点別に考査問題を作成し、学習状況が確認できた。
	自立(自律)性の確立	自らの現状や課題を模索し、自立に必要な知識と技術を習得する。	講義、ワーク、実習、振り返り、提出物の完成度などを通して定着の様子を把握する。個人作業や協力作業を取り入れ、コミュニケーションを取りながらスムーズに作業できるよう促す。	現状と課題が把握できているか。提出物が指示通りできているか(レポート点提出物点)実習や作業が協力して、また個人の目標達成できたか。(実習点)	B		提出物の形式を一定化せず、実習も含めて多様な内容で実施できた。
		意思決定の重要性を知り、適切な情報、資料の読み取りができるようにする。	視覚教材や資料を活用し、身の回りに起こってる多様な状況を知らせることで課題意識を持たせ、自己決定の判断材料とする。	将来を見通した生活管理や情報の活用が適切にできているか。資料の読み取り内容を論理的に説明できているか(段階別考査点)	C		写真や動画、読み聞かせ、新聞記事などを利用し、現状をリアルタイムで共有するように努められた。
	進路実現	社会情勢を知り、知識を蓄え、自分の言葉で現状と課題解決に向けての意思表示ができるようにする。	同上	将来を見通した生活管理や情報の活用が適切にできているか。資料の読み取りと現代の課題を結びつけ、自分の言葉で意思表示できているか。（段階別考査点、レポート点）	C		写真や動画、読み聞かせ、新聞記事などを利用してそれぞれの意見を率直に述べられるようにした。
			生活に関わる情報をリアルタイムで提示し、その都度考えをまとめる等の意思表示ができるよう促す。		B		写真や動画、読み聞かせ、新聞記事などを利用してそれぞれの意見を率直に述べられるようにした。
情報科	新しい時代の職業観を確立する取組	○時代に応じた、企業が求める人材の育成 ○産学官連携による実践的学習・探求	各科目において目的、伸ばしたい資質・能力、及び到達度を図るレベルを示し、効果的な取組を実践する。 情報を専門に学ぶ高校生として年間を通して授業や特別活動等において情報モラルの指導を行い、意識の高揚を図る。	到達度マップの調査により、年度末の時点で向上がみられる生徒の割合が5割以上にする。	A	B	7割程度の生徒は何かしらの項目で向上できたと回答した反面、もとの基準が高く、向上していないと考える生徒も一定数いた。
	デジタル・シティズンシップを確立するための取組み	○一人一台端末を授業・課外での活用を進める。 ○適切に情報技術を活用する規範や原則の啓発授業推進	授業の課題提出やアンケート回答などに個人端末（ノートパソコン、スマートフォン等）を活用する。 個人端末の活用を通じて、正しい活用方法や情報モラルの指導を行い、規範意識の向上を図る。	Classiによるアンケート回答率を7割以上にする。 1年間における情報端末に関する指導件数を10件未満にする。	A		Classiで実施したアンケートの回答率が8割だった
					C		今年度の指導件数は16件であった。
	進路実現のための取組み	○学校推薦・総合型選抜で勝負できる専門性や学力向上の徹底 ○検定試験合格	授業や補習等で検定試験や国家資格の学習を行い、資格取得を促進し、資格取得率の向上を図る。 幅広い進路実現のために、より多くの資格取得を目指す。	入学次から卒業次を通して資格を取得している生徒の割合が8割以上にする。	A		1年生：99% 2年生：87% 3年生：93%
商業科	学習指導	授業における主体的・対話的で深い学びの実現	生徒の主体的・対話的な学習の実現	企業・大学・中学校との連携も踏まえ、学習の発表の場を18回以上実施できたか	A	B	各方面との連携による発表の場を数多く設定できた。
			観点別評価（3観点・4観点）を踏まえた、生徒が理解し、意欲をもつ授業の展開	生徒授業評価の値が3.5を超えたか	C		授業評価の数値が伸びず、観点別評価についての課題も残る。
		地域との協働的学習の推進	地域社会とつながる授業や取組の学習システムの継続	生徒対象アンケートによる意識の高まりが80%を超えたか	B		生徒の振り返りから意識の高まりを感じることができた。
		ビジネス教育の利点活用の推進	資格取得への啓蒙啓発、学習環境支援として、計画的・組織的な指導、検定補習等の取組の実施	検定合格率・資格取得率が全国平均を超えたか	B		直接的な全国平均との比較はできていないが、前年より概ね合格率は上昇。
			産業と連携した実践的探求授業の実施	インターンシップ等産業連携活用の実施が18回以上できたか	A		インターンシップ等産業界との連携をとって実践的学習が設定できた。

令和4年度		京都府立京都すばる高等学校		学校経営計画（スクールマネジメントプラン）		（ 最終評価段階 ）	
部	評価領域	重点目標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	評価		成果と課題
教務部	学習指導	基礎学力の向上を図る	考查前補充を実施する	年間で25日以上行う	A	B	100%以上実施
			長期休業中に補充を実施する	8日以上行う	A		100%以上実施
		授業力の向上を図る	研究授業の実施	各教科において1回以上研究授業を行う	A		各教科研究授業実施
			授業参観の実施	各教員が3回以上授業参観を行う	D		3回以上授業参観を行った教員は6名
総務企画部	生徒募集	校外広報の充実と強化（中学生・保護者・教員・塾・地域・企業等）	・京都市乙訓地域の中学生への広報活動 ・高卒後就職を考えている中学生への広報活動 →方策の詳細は職員会議資料「生徒募集戦略」参照	次年度前期選抜における志願者数 （起業創造科120名以上、企画科120名以上、情報科学科90名以上）	B	B	志願者数の目標は達成できなかったことが最大の課題だが、各説明会等の満足度は80%を超え、充実した内容となった。ホームページのリニューアルを行ったほか、ブログは年間250回以上更新し、校内外の広報強化ができた。
		校内広報の充実と強化（在校生・保護者・教職員）	・授業や行事の様子を校内でも共有し、在校生・保護者・教職員の帰属意識や満足度を高める →方策の詳細は職員会議資料「生徒募集戦略」参照	同上（校内広報が最終的には中学生の募集につながる）	B		
	図書	図書館の活性化	・総務企画部員で図書館業務や委員会活動を分担する ・各種イベント等を積極的に企画実施する ・授業等で図書館を活用してもらうよう働きかける	図書館の利用者数のべ7,000人以上 授業での図書館利用回数10回以上	A		利用者数は年間6,408人、授業での利用回数は17回であった。イベントの企画実施も積極的に行った。次年度は「授業で活用してもらう仕組み作り」をした
	その他	PTA活動の整理と再構築	・管理職と共に、コロナ禍でのPTAの在り方や、時代に応じたPTA活動について検討する	「前年度までの踏襲」をやめ、管理職・関係各所と検討・調整できたか	B		関係各所との連携不足で効率化があまり進まなかった。次年度も引き続き整理と再構築を進める必要がある。

令和4年度 京都府立京都すばる高等学校		学校経営計画（スクールマネジメントプラン）			（ 最終評価段階 ）		
部	評価領域	重点目標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	評価		成果と課題
生徒指導部	生徒指導	基本的生活習慣の確立	登校時の校門指導を実施し、5分前行動の定着を図るとともに、遅刻した生徒には、的確に指導する。	毎朝、登校時の校門指導を行う。校門遅刻指導件数年間350件以下を目標とする。	C	C	毎朝の登校校門指導を行うことができた。しかし、遅刻指導件数は、目標件数より多かった。
			身だしなみの重要性を指導し、生徒自身に細部にわたり身なりを整える意識を持たせる。日々観察しながら、改善点を確実に指摘する。	各学期始業時と定期考査時に身だしなみ検査を行い、服装規程違反者指導件数50件以下を目標とする。	B		服装違反生徒の指導件数は、少なかった。しかし、生徒に日常から身だしなみを整える意識を持たせることは不十分であった。
	生徒指導	相手の立場に立った言動ができる生徒を育てる	挨拶をした人、挨拶をされた人の双方が、さわやかな気持ちになる挨拶を心掛けるよう指導する。「自ら気づき」自主的に挨拶ができるように指導する。	毎朝、校門において挨拶指導を行う。学校生活全般での生徒の様子を観察し、検証する。	B	B	挨拶をする生徒は多い。しかし、形だけの生徒や挨拶を返さない生徒も少数おり、徹底できなかった。
			年2回の人権学習や日常のホームルーム、部活動などを通じて、言動に責任を持つとともに、他者への思いやりが感じられる行動を心掛けるよう指導する。	年2回のアンケート調査を行う。	B		年2回のアンケートを実施し、その都度対処することができた。日常では、他者への思いやりのない発言や行動が見られ、指導を行う場面もあった。
	生徒指導	生徒の主体的な活動を支援する	部活動、生徒会活動、各種委員会活動の充実を図る。	学校全体の部活動加入率80%以上を目標とする。生徒一人1つ以上の生徒会、委員会またはクラス係などの役割を担う。	B	A	部活動加入率が高いが、年次が進行する度に継続率が低下した。
			体育祭・球技大会等の学校行事の充実と主体的な運営と参加を促す。	6月に球技大会、10月に体育祭を実施する。生徒会、関係委員会、部活動を通じて生徒が主体的に運営、参加する。	A		体育祭・球技大会ともに、実施することができた。生徒は、ルールを守り、主体的に運営、参加することができた。
進路指導部	進路指導	進路保障のための指導体制を拡充する	希望進路実現に向けた流れを意識した指導体制の構築・運営を行う	各種ガイダンス／セミナーの実施状況を検証する	B	B	進学・就職に向けたきめ細かな指導を実践するとともに、各種ガイダンスや検討会などを実施した。また、進路希望調査や各種実力テストの分析を通して学校・学年・学科の状況を可視化した。加えて、昨年度より本格的に実施している3年間を見通した指導についても運用と並行した調整・改善を進めている。高大接続改革への対応については新入試制度の概要等を生徒・保護者・教職員に周知するとともに、あらたな高大連携型入試の導入も実現できた（令和6年度入試より）。他方、キャリア教育についてはキャリアパスポートの記入指導にとどまっており、キャリア教育そのものに対する教員の意識の醸成が必要であることも判明している。
		進路保障のための指導体制を拡充する	各教科・学年部との連携を進め、進路実現に必要な情報の提供や生徒情報の共有に努める	各種分析データの提供・検討会の実施状況を検証するとともに、進路だより等の発行状況も検証する	B		
	進路指導	持続可能な進路実現方法を模索する	企業・事業所の緊密な連携を図り、社会情勢の左右されない就職環境の維持を図る	企業訪問の状況と次年度以降に向けた求人の維持・拡大について検証する	B		
		持続可能な進路実現方法を模索する	上級学校との連携を進め、高大連携型をはじめとする生徒の状況に合わせた進路実現の道筋をつける	本校の強みを生かした進路実現方法の確立について検証する	A		
	進路指導	キャリア教育を充実させる	キャリアパスポートの運用によってキャリア意識の醸成に努める	キャリアパスポートやポートフォリオ(学びの振り返りシート)の実施状況を検証する	B		
		キャリア教育を充実させる	職業分野別講演会や分野別進路体験学習など、生徒が自身のキャリアを意識できる取り組みを企画・運営する	キャリア教育に係る各種の取組の実施状況を検証する	B		

令和4年度 京都府立京都すばる高等学校			学校経営計画（スクールマネジメントプラン）		（ 最終評価段階 ）		
部	評価領域	重点目標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	評価		成果と課題
1学年	学習指導	学習習慣を確立させる	教室清掃をはじめとして学習、教室環境の整備をし、全員が学習に取り組む雰囲気作りをする。	学校生活全般や各クラスでの生徒の様子を観察することや面談を通して検証する	C	C	家庭学習の定着ができていない生徒に対しての対策を次年度考えていかなければならない。 （提出物が出せない生徒も含
	生徒指導	基本的生活習慣を確立するとともに、問題を抱えた生徒を早期発見し対応する。	学年会議で各クラスの生徒状況を把握し、必要に応じて担任団が協力して指導する。 個人面談等を随時行い、保護者の方との連携連絡を密にして、問題解決に向けて、早期対応、早期対処に当たる。	学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する	C		基本的生活習慣の指導を継続して行ったが、まだまだ身につけていない生徒がいる。引き続き、指導を継続していく。保護者との連携も密にしっかりと行っていきたい。
第2学年部	学習指導	進路目標を明確化し、授業を大切にするとともに積極的に学習活動に取り組む姿勢を育成する	学習環境を整備し、日々の授業を大切にするとともに進路ガイダンスを活用し、将来の自己の姿に展望を持たせる	学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する	B	B	担任との面談と定期的な進路ガイダンスを通して進路意識が高まった。しかし、一定数の未定者がいるため、3年のスタート時では具体的な目標が立てられるように促す必要がある。
			業者による模擬試験等を活用し、面談等をとおしてきめ細かに点検する	業者による資料を活用し、学力と学習習慣の改善度合いを検証する	C		
	生徒指導	基本的な生活習慣を確立させるとともに生徒による主体的な活動を育成する	日常の指導を大切にするとともに、学校行事、学年集会、ホームルーム活動等をとおして、生徒の自覚を促す指導を継続的に行う	学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する	B		
第3学年部	進路指導	個々の希望する進路実現を目指す。	担任による面談等の指導の充実。 進路指導部との密な連携。	学校評価アンケート問8に対する「①そう思う」「②どちらかというと思う」の回答合計が80%以上を目標とする。	B	A	進路実現はできたが、76%
							で目標は達成できなかった。
	生徒指導	自立（律）性の確立。 3年生として下級生の模範となる言動を身につける。	担任によるSHR、LHR時の指導。 必要があれば、学年全体での指導を行う。	生徒の言動を観察し、評価する。	A		一部問題行動があったが、
教育推進部	専門教育	資格取得・検定合格、各種競技大会等に向けた取り組みの充実	専門教科等と連携して検定補習を円滑に実施し、生徒の資格取得を推進する。	全国標準合格率を上回るよう、高度資格取得のための講座を開催する。	B	B	講座を開設し補習に取り組んだ。全体の合格率は伸びていない。
			専門教科、各部活動と連携して、専門教育を生かした各種競技大会等への参加を推奨・支援する。	全国入賞を目標とし、全国大会・近畿大会に出場する。	B		各種競技大会において全国・近畿に出場した。全国入賞は叶わず。
		産業と連携した実践的探究	文科省地域協働指定終了後の、地域との協働型の特色ある教育活動の推進を継続する。	生徒対象アンケートによる意識の高まりが80%を超える取り組みをすすめる。	B		生徒の振り返りから意識の高まりを感じることができた。
		新しい「京都すばるデパート」の研究	新しい販売学習「京都すばるデパート」の研究をすすめ、本校の活発化にむけて取り組む。	新しい販売学習の形と仕組みが提案できる。	B		仮想空間での開店式などの取り組みができた。生徒満足度は7割。
		情報ネットワークシステムの維持・管理	情報ネットワークシステムの維持・管理を行う。	情報ネットワークシステムの維持・管理がスムーズにできる。	B		ネットワークの維持・管理は概ねスムーズに進めることができた。
		一人一台端末等ICT教育を授業・課外での活用	ICT研修会等の開催及び活用に向けた情報の発信・提供に取り組む。	ICT研修会等の開催及び活用に向けた情報の提供ができる。	B		ICT活用に向けた情報提供に心がけた。今後更に高めたい。

令和4年度		京都府立京都すばる高等学校		学校経営計画（スクールマネジメントプラン）		（ 最終評価段階 ）	
部	評価領域	重点目標	具 体 的 方 策	評 価 基 準	評価		成果と課題
保健部	自律性の確立	清掃による校内環境保全	挨拶で終わり挨拶で終わることで、10分間全てを用いて清掃する	10分間の清掃時間を全て使って清掃できている	B	B	ポイント清掃で、清掃啓発を実施
		清掃時に清掃道具を有効に、大切に使用して清掃する	担当清掃場所で清掃道具を有効に使用できるよう清掃用具点検を行う	清掃用具点検の時の確認で、用具が適切に用いられているか	A		1学期に全帯確認後、用具点検実施
	自律性の確立	自らの健康を自己管理する	健康観察カードで平日土日祝日も健康観察を自らで行う	健康観察カードの提出95%	B		新型コロナウイルス感染症対策全体の再検討が必要である
		自らの健康を守り、集団の健康も守る		朝の登校時、昇降口での手指消毒100%	B		
	主体性・社会性の確立	一人一人の生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導、支援を行う。	特別支援が必要な生徒の実態把握を行い、生活や学習上の困難を改善し、社会的自立に向けた指導、支援を行う。	特別支援会議を学期に2回開催し、当該生徒の自立や社会参加に向けた取り組みを行う	B		継続的な指導の実施ができた
		気になる生徒、学校不適應の生徒への早期で適切な対応を図る	保健担当者会議を持ち、気になる生徒の指導や方向性について上表共有、対応を行う。その後、教育相談会議を持ち、今後の対応、指導支援について審議する	月1回の保健担当者会議に向けて、校内連携、情報共有を行う	B		分掌間の情報共有の工夫に努めた
事務部	施設設備環境管理	安心安全な学校づくり	施設担当者・技術職員を中心に施設設備の定期的な点検を行い、危険箇所を把握する。また、老朽化した施設設備について、計画的に改修を行う。	・月1回程度の定期点検の実施 ・修繕、改修計画の作成と予算化	C	C	・月1回の定期点検について、一部実施できなかった。 ・修繕工事については、安全第一に計画をたてて実行できた
		生徒が主体的に学んだり、特色ある学習を支える教育環境の整備	一人一台端末を活用した授業の推進のための教育環境のさらなる充実や、特色化を推進するための施設設備の改善計画について、検討していく。	・特色化を推進するための必要となる設備について、関係部署との協議や連携を深める	C		特色化を推進するための施設整備の計画を具体化し、一部実施できた。引き続き予算を確保していきたい。
	予算執行	学校の特色化の推進・他校との差別化を図るための効果的な予算執行	校内会議、広報活動への積極的な参加を行う。	・目標を実現するための重点的な予算確保及び執行	C		限りある予算の中で今年度目標としていた重点施策について、優先的に執行することができた。今後は校内での連携を強化し、より特色化が推進できるよう効果的な予算編成及び執行を行いたい。
	就学支援	経済的不安に対する制度からの支援	就学支援、奨学金の周知と丁寧な事務処理を行う。	就学支援、奨学金等の生徒・保護者・教職員への周知徹底	B		教員と連携して周知ができた。今後も迅速に対応していきたい。
		一人一台端末に対する支援制度	家庭状況に応じて適切な対応を行う。	購入・持込端末について、各制度を活用してすべての生徒のスムーズな利活用を進める	C		購入・持込の意向に時間がかかった。周知方法を改善していきたい。